

長久手市行政評価票 (S票：施策評価票)

施策番号	S22	施策名	ごみの減量化
担当部課	くらし文化部環境課	関係部課	教育総務課

基本情報	第6次総合計画・基本目標	3 みんなで未来へつなぐ 緑はまちの宝物
	行政改革指針・重点課題	1 経営改革の推進
	法定受託事務の有無	無
	その他(関係計画、要綱等)	有 一般廃棄物処理基本計画
施策開始の背景、経緯等	近年、もえるごみが増加し、資源化率が低下傾向にあること、また尾張東部衛生組合晴丘センターが今後更新工事を控えており、ごみの減量化が必要となっている。	

施策の目的等	施策の内容	(どのような施策なのか) 市民のごみ分別意識を向上し、ごみの減量化及び資源化率の向上を目指す。
	施策の対象	(誰、何を対象にしているか) もえるごみ
	施策の意図	(対象をどのような状態にしたいか) 1人1日あたりのもえるごみの量を減量したい。

目標・成果推移等①	施策に係る取組①	ごみの減量啓発				
		R4年度(2022)	R5年度(2023)	R6年度(2024)	中期(おおよそ3年後)	長期(おおよそ5年後)
		成果・実績	成果・目標	成果・目標	成果・目標	成果・目標
		・「ながくてごみ減量化通信」を毎月発行、自治会回覧 ・市が洞小で小学4年生全員にごみ分別出前講座を開催	・「ながくてごみ減量化通信」を毎月発行、自治会回覧 ・小学校で環境教育(ペットボトル水平リサイクル)を開催 ・CATVで特集「ながくてEcoスタイル」を定期放送	・「ながくてごみ減量化通信」を毎月発行、自治会回覧 ・広報折込 ・ごみ分別出前講座開催	・広報、ホームページ、回覧、アプリ、CATV、SNSなど様々な媒体でごみ減量を啓発 ・ごみ分別出前講座開催	・広報、ホームページ、回覧、アプリ、CATV、SNSなど様々な媒体でごみ減量を啓発 ・ごみ分別出前講座開催
		費用・実績 (細々節名) (金額)	費用・見込み (細々節名) (金額)	費用・見込み (細々節名) (金額)	費用・見込み (細々節名) (金額)	費用・見込み (細々節名) (金額)
		特になし	特になし	広報折込手数料 88千円	広報折込手数料 88千円	広報折込手数料 88千円
		市民参加数・実績	市民参加数・見込み	市民参加数・見込み	市民参加数・見込み	市民参加数・見込み
		(延べ) 200 人	(延べ) 200 人	(延べ) 200 人	(延べ) 200 人	(延べ) 200 人

目標・成果推移等②	施策に係る取組②	ごみの減量対策				
		R4年度(2022)	R5年度(2023)	R6年度(2024)	中期(おおよそ3年後)	長期(おおよそ5年後)
		成果・実績	成果・目標	成果・目標	成果・目標	成果・目標
		・長久手市ごみ減量・収集アクションプラン策定、説明会開催 ・西部と東部に出張ながくてエコハウスを設置 ・「充電5品目」回収開始 ・ペットボトル水平リサイクル協定締結	・ペットボトル水平リサイクル事業開始 ・地域が管理運営するミニエコステーション募集及び設置	・ごみ減量検証 ・プラスチック一括回収検討 ・地域が管理運営するミニエコステーション募集及び設置	・目標達成なら検証継続、未達成ならもえるごみ袋増額 ・プラスチック一括回収準備	・目標達成なら検証継続、未達成ならもえるごみ袋増額 ・プラスチック一括回収開始
		費用・実績 (細々節名) (金額)	費用・見込み (細々節名) (金額)	費用・見込み (細々節名) (金額)	費用・見込み (細々節名) (金額)	費用・見込み (細々節名) (金額)
		特になし	資源回収拠点管理委託 264千円	資源回収拠点管理委託 264千円	資源回収拠点管理委託 396千円	ごみ収集及び運搬委託 未定 プラスチック処理手数料 19,250千円
		市民参加数・実績	市民参加数・見込み	市民参加数・見込み	市民参加数・見込み	市民参加数・見込み
		(延べ) 50 人	(延べ) 48 人	(延べ) 96 人	(延べ) 144 人	(延べ) 240 人

活動状況	活動エピソード	(活動のエピソード、コメント、特記事項など) 令和4年度は、令和3年度から検討していたもえるごみ袋増額の方針をいったん見直し、市民がごみ減量に取り組みやすい環境づくりを市が先行して実施することとした。増額とともに併せて実施する予定だった17の取組を「長久手市ごみ減量・収集アクションプラン」として策定したほか、市内の西部と東部に出張ながくてエコハウスを設置し、資源回収拠点を計4か所とした。
------	---------	--

改善状況	改善ポイント	(何をどのような状態に改善したのか、改善が必要なことなど) 啓発については、これまで広報やホームページを中心にしてきたが、自治会回覧やアプリ、CATV、SNSなど啓発媒体を増やすことで少しでも市民の目に触れる工夫をしてきた。
評価	評価・課題	(進捗状況や課題など) R4実施のもえるごみ組成調査で、もえるごみ袋の中にもえるごみ以外のものが全体の約30%を占めており、市民のごみの分別意識の変革が必要。市民に対して広報や説明会、出前講座等で啓発を促していくほか、ごみ減量施策を実施することでごみ減量や資源化意識を高める必要がある。
費用対効果	施策の意図に係る費用対効果の分析	(施策の意図に係る費用対効果の分析、検討、研究の状況など) ごみ処理には多額の費用がかかっており、ごみを減量することでその費用を抑えられる。また、ごみ減量により処理施設にかかる負荷を抑え、施設の延命化につなげることができる。
今後	今後の方向性、改善点	(施策を実施するにあたって今後の方向性、改善点など) 市民のごみ減量意識や分別意識を高め、ごみ減量目標を達成するため、令和4年度に策定した「長久手市ごみ減量・収集アクションプラン」の17の取組や、令和5年度中に策定する長久手市一般廃棄物処理基本計画に位置づける施策を進め、毎年度ごみの減量状況を確認する。